

東奥日報
2025年(令和7年)3月20日(木曜日) (20)

市中心街 描く未来図は

ハ工大生 課題解決 アイデア発表



それぞれの班で考えた中心街の課題解決策を発表する学生

八戸市中心街が抱える課題の解決策を八戸工業大学の学生たちが考える事業の報告会が10日、市庁で開かれた。交通の利便性向上や空き店舗活用などについて、自分たちで作ったイメージパースや模型を示しながらアイデアを発表した。(大庭菜摘)

地域課題を解決できる人材の育成などを目的に、同大、市、第三セクター・まちづくり八戸の3者が2016年度に結んだ覚書に基づく事業。同大工学部工学科の学生54人が6グループに分かれ、昨年9月から約半年間、授業の中で自ら中心街の課題を見いだし、解決策を検討した。

この日は熊谷雄一市長、まちづくり八戸社長の武輪俊彦八戸商工会議所会頭らに成果を報告。中心街にバスターミナルを整備するアイデアを発表した班は、マチニワを生かし、既存のバスターミナルを集約して新たに商業やオフィス機能を備えたバスターミナルをつくることで、利便性向上などにつながる」と説明。空きビルに観光客向けの体験型施設をつくるアイデアを発表した班は、南部せんべいなどの地元の食べ物を作って食べることができるフロアのほか、地元の住民が使えるコワーキングスペースを設け、全世代が利用できる場の提供を提案した。

武輪会頭は「面白い視点も取り入れた、わくわくする発表だった。これから再開発などが進む中で、いい財産として活用できれば」と講評した。

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」